

2025 年度 日本行政学会春季理事会議事要録

日時：2025 年 5 月 23 日（金）17 時 00 分-19 時 00 分

場所：オンライン方式 オンライン会議システム Zoom

出席者：金井利之（理事長）、市川喜崇、伊藤正次、入江容子、太田響子、北村亘、京俊介、工藤裕子、坂根徹、嶋田暁文、嶋田博子、清水唯一朗、砂原庸介、宗前清貞、曾我謙悟、辻陽、辻琢也、手塚洋輔、徳久恭子、西岡晋、深谷健、牧原出、益田直子、松井望、森道哉、山崎幹根（以上理事）、稲生信男、牛山久仁彦（以上監事）、田井浩人、前田貴洋（以上幹事）

I 事務局一般活動報告

I. 1 現会員数について

松井望事務局担当理事から、2025 年 4 月 1 日現在の個人会員数が 598 名、団体会員数が 15 団体であることが報告された。

I. 2 学会費納入状況

松井望事務局担当理事から、2025 年 5 月 21 日現在、個人会員数 598 名から顧問 14 名を差し引いた会費会員数 584 名のうち 392 名が 2025 年度会費を納入済み（納入率 67.1%）であることが報告された。

なお、2025 年 5 月 1 日現在の 2025 年度会費未納会員は 238 名であり、その内訳は、1 年未納（2025 年度）207 名、2 年未納（2024-25 年度）21 名、3 年未納（2023-25 年度）9 名であることが併せて報告された。

I. 3 学会費未納者への対応について

松井望事務局担当理事から、事務局より行政管理研究センターに対して学会費未納者への督促作業を依頼し、実施したことが報告された。

I. 4 退会者について

松井望事務局担当理事から、2024 年 12 月 7 日（秋季理事会翌日）～2025 年 3 月 31 日までの間に、申出等による退会が 4 名、会費未納による退会が 29 名あり、会費未納による退会者は 2024 年度末に会員名簿から削除されたことが報告された。

I. 5 メール審議の結果報告について

松井望事務局担当理事から、2024 年 12 月 7 日（秋季理事会翌日）～2025 年 4 月 30 日までの間に、①ポスター賞の審査方式、奨励賞の資格要件案、②ポスターセッションの追加応募者案について 2 件の審議事項があり、いずれも原案通り承認されたことが報告された。

I. 6 行政管理研究センター保管中の書類の保存・廃棄について

松井望事務局担当理事から、行政管理研究センターが保管する過年度事務局資料の整理状況について、以下の通り報告があった。2023 年度秋季理事会を踏まえて、3 名の会員（稲垣浩会員、若林悠会員、山田健会員）が、過年度事務局の各種書類(議事録、名簿等)を、本行政学会史を辿る上で必要な資料であるか否か精査し、整理、廃棄作業を進めてきた。この度、同作業を一定程度終えたため、2025 年度総会において同作業の結果を上記会員より報告する。

1. 7 メールニュースの配信について

松井望事務局担当理事から、2024 年度は、計 24 回の配信を行い、2025 年 1 月以降は、原則、毎月第 2 週末と第 4 週末に、前週までの会員からの掲載依頼を踏まえ、一括配信を行ったことが報告された。

1. 8 理事会議事要録の公開について

松井望事務局担当理事から、2024 年度秋季理事会終了後、議事要録案を理事会に諮り、その後、学会ウェブサイトに掲載したことが報告された。

1. 9 学会開催時の託児サービス等について

松井望事務局担当理事から、学会開催時の託児サービス等について、以下の通り報告及び意見照会があった。まず、開催校担当理事、各委員長、事務局等で検討、確認の結果、2025 年度大会では、以下の通り対応することを決定した。

- ・ 2024 年度大会での対応を踏まえて、会員にメールニュース及び開催要項を通じて、開催校周辺での保育サービスの情報を提供。
- ・ 会場内での託児スペースは、会場の余剰空間を確保できないことから、特設、設けることとしないこと。
- ・ 研究会への児童の帯同は、会場スペースを考慮して、今回は認めないこと。
- ・ また、登壇者が保育等のケアを理由に当日登壇ができない場合は、新型コロナウイルス感染症時の対応に倣い、報告論文を提出済みの場合には当該報告者は報告したものとして対応。

次に、2026 年度大会以降の対応に向けて、以下の 4 点について論点整理と意見交換が行われた。

(1) 想定される今後の託児サービス等

- ① 本学会又は開催校による託児事業者への委託案
- ② 開催校内で営まれている託児事象者（事業者内保育所）の利用案
- ③ 本学会から託児サービス利用者の助成案
- ④ 開催校による託児事業の情報提供案

(2) 大会開催会場への帯同等

- ① 開催会場内での託児スペースの確保案
- ② 研究会会場への帯同案
- ③ 開催会場内での保育スペースを設けず、研究会会場への帯同を認めない案

(3) 大会自体のあり方の見直し

① オンライン開催案

② 2日制から1日制への移行案

(4) 準備体制の要否と今後の予定

審議の結果、意見交換の内容を踏まえ、組織財政委員長を中心にワーキンググループを設置し、引き続き検討を進めていくことが確認された。

2 各委員会事業報告

2. 1 企画委員会報告

北村亘企画委員長から、2025年度研究会及びポスター賞の審査方式の明確化について、以下の通り報告された。まず、2025年度研究会は、会場の都合でハイブリッド開催は行わないこと、例年より15分遅れでスケジュールが組まれていることが説明された。次に、理事会の承認に基づき、今年度からポスター賞の審査方式を以下の通り変更したことが説明された。第1に、審査方式について、明示した複数の審査基準ごとに、それぞれ5点満点で評価を行う。第2に、審査基準について、一次審査において「将来の研究の発展可能性を示すものであるか」の項目を新設した。また、研究奨励賞及びポスター賞の資格要件について、共著（共同報告）の場合の規程を明確化したことが併せて報告された。

2. 2 年報委員会報告

嶋田暁文年報委員長から、『年報行政研究』60号の発行に関して、以下の通り報告された。特集については、特集のねらいを伊藤正次理事（前企画委員長）が執筆し、特集論文として3本を掲載した。公募論文については、応募された4本のうち再査読となった2本すべてが掲載可の判定となった。書評は12本を掲載した。また、佐藤竺顧問のご逝去に伴う馬場健会員による追悼記事と、中村陽一顧問のご逝去に伴う日高昭夫会員による追悼記事を掲載した。総ページ数は180頁、価格は前年度と同様に3,100円となった。

2. 3 国際交流委員会報告

砂原庸介国際交流委員長から、2025年度研究会について、以下の通り報告された。5月23日（土）午後（13時30分～15時15分）の枠で、KAPAと共同での国際交流分科会を対面実施する。KAPAからは、登壇者としてJinsol Park先生(Inha University)とJoowon Jeong先生(Kyung Hee University)の2名が訪日予定である。また、KAPAとのMOUに基づき、2025年度KAPA夏大会（6月18日-20日）に、京俊介理事（中京大学）、橋本圭多会員（神戸学院大学）を派遣することが報告された。

次に、その他の国際学会への対応について、2025年2月10日～14日にニューデリー（インド）で開催された国際行政学会（IIAS）には、本学会から公式の参加はしていないが、複数名の会員からの参加があったことが報告された。また、今後開催予定の学会として、アジア行政学会（AAPA）及びEROPA（Eastern Regional Organization for Public Administration）について、開催情報や助成制度に関してメーリングリストを通じて会員に周知したことが報告された。

最後に、国際学会報告助成については、現在のところ申請はない。昨年度も申請がなかったことから、本制度についてメーリングリストを通じて改めて会員に周知したことが説明された。

2. 4 組織財政委員会報告

入江容子組織財政委員長から、倫理綱領案の作成について、以下の通り報告された（理事・監事選考委員会委員の設置については議題6を参照）。倫理綱領策定に向け、委員会内検討グループを中心に検討し、全8条からなる案を作成した。今後の要検討事項として以下の7点について説明がなされた。

- ① 倫理綱領は基本法としての位置づけか、細部まで書き込み実質性を持たせるか
- ② ①に関連し、倫理綱領に処分規定を設けるか
- ③ ①に関連し、倫理委員会を設置するか
（以上、大枠に関する論点）
- ④ 「研究費の濫用」「適正な使用」について、定義を含めてどこまで踏み込んで記載すべきか
- ⑤ 倫理委員会を設置する場合、附則で規定するか第9条を新設するか
- ⑥ 不正行為の範囲に利益相反なども含めるか
- ⑦ 前文を置くか否か

審議の結果、倫理綱領の作成については承認され、内容については引き続き組織財政委員会において検討することとされた。

3. 2024 年度決算

松井望事務局担当理事から、以下の通り決算案について説明された。本年度収支は、収入（前年度繰越金を除く）401万6,263円に対し、支出474万2,235円となり、収入▲72万5,972円であった。収入の部は、個人会費収入が予算額からは▲15万8,334円であった。支出の部は、前年度と比べ+114万4,439円であった。増額幅の大きな費目として、学会開催費は前年度から+131万4,962円であった。その他、年報買上費は前年度から+6万60円、国際交流費は同じく前年度から+5万460円であった。一方、理事会費は、秋季理事会をオンライン開催としたことで、前年度から▲4万1,549円、学会分担金は、2024年度は1団体のみの支払いとなり、前年度から▲3万2,659円であった。その他、研究助成費は90万円を計上したが支出はなく、事務局費、事務委託費ともに予算から減額している。また、年報買上費は、実際の請求額が減額となったため、予算額と比べ支出額が少なくなっている。

4. 監査報告

稲生信男監事及び牛山久仁彦監事から、2025年4月19日（土）に東京都立大学（南大沢キャンパス）で監査を行い、適正に処理されていることが報告された。

審議の結果、2024年度決算が原案通り承認され、翌日の総会に諮ることとなった。

5. 2025 年度予算の審議

松井望事務局担当理事から、以下の通り予算案の説明が行われた。個人会員の会費収入は、個人

会員数に会費を乗じた額の 9 割を計上、団体会員の会費収入は、団体数に会費を乗じた額を計上した。また支出として、学会開催費は、2024 年度予算と同額とした。理事会費は、オンライン開催による経費削減により、2024 年度の半額とした。学会分担金は、2023 年度及び 2024 年度実績をもとに、EROPA への 2024 年度未払い分を含めて 11 万 8,000 円を計上した。国際交流費は、2024 年度実績を踏まえ、20 万円を計上した。年報買上費は、2024 年度実績を踏まえ、2024 年度と概ね同額を計上した。研究助成費は、過年度の実績を踏まえた金額とした。事務局費は、過年度の実績を踏まえ、2024 年度より削減し、60 万円を計上した。事務委託費は、(一財)行政管理研究センターとの契約額及び実績を踏まえ、32 万円を計上した。

審議の結果、2025 年度予算案が原案通り承認され、翌日の総会に諮ることとなった。

6. 理事・監事候補者選考委員会の設置等

入江容子組織財政委員長から、分科会活動実績や地域・ジェンダーのバランス等を考慮し、理事・監事候補者選考委員会の委員候補者として、理事長、事務局担当理事、企画委員会委員長、年報委員会委員長、国際交流委員会委員長、組織財政委員会委員長のほか、「その他の委員」として、堀池航洋会員（札幌学院大学）、若林悠会員（大東文化大学）、谷本有美子会員（法政大学）、水野和佳奈会員（岐阜協立大学）、森山花鈴会員（南山大学）、三谷宗一郎会員（甲南大学）、黒石啓太会員（北九州市立大学）の計 13 名を選出したことが報告された。

審議の結果、次期理事・監事候補者選考委員会の委員候補者案が原案通り承認され、翌日の総会に諮ることとなった。

7. 2026 年度大会開催校について

工藤裕子 2026 年度開催校担当理事から、次年度の総会・研究会の開催日程は 2026 年 5 月 23 日（土）・24 日（日）、会場は中央大学の茗荷谷キャンパスまたは後樂園キャンパスのいずれかでの開催を検討していることが報告された。

審議の結果、開催日程は原案を第一候補とすることが承認され、翌日の総会で報告することとなった。また、関連して 2025 年度秋季理事会及び 2026 年度春季理事会は、いずれもオンラインで開催することが承認された（2026 年度総会・研究会 1 日目の理事会は対面で開催）。

8. 入会希望者の審査

松井望事務局担当理事から、17 名の入会申請があったことが報告され、17 名の入会が承認された。

以上